

## 室戸台風

室戸台風が襲来する前日の午後5時頃、室戸岬測候所は暴風雨警報を出していましたが、しかし、その時室戸付近は静かな天候でしたし、当時は情報伝達手段が発達しておらず、測候所の警報は人々に十分には伝わりませんでした。室戸台風による暴風や高潮は各地に大きな被害をもたらしました。高知県室戸市と徳島県美波町の状況をお伝えします。

### ■室戸市の室戸台風（高知県室戸市）

昭和9年(1934)9月21日午前5時、室戸台風が奈半利町に上陸し、北東に進みました。室戸岬測候所の記録によると、午前5時10分頃、気圧は684水銀柱ミリメートル(911.6ヘクトパスカ)、瞬間風速は60m以上となりました。暴風に加えて、高潮が被害を大きくしました。波の高さは室戸付近で12~13mに達しました。室戸市の旧町村別の被害は、室戸町で死者・行方不明14人、流失全壊住家239戸、室戸岬町で死者63人、流失全壊住家550戸、吉良川町で死者・行方不明4人、倒壊住家180戸、羽根村で死者18人、全壊住家103戸、佐喜浜村で負傷者20人などに及びました。津呂王子宮など室戸岬町の旧国道沿いの各地には高潮が襲来したことを示す「昭和九年海嘯襲来地点」の碑が建立されています。<室戸市史編集委員会編「室戸市史上巻」1989年、土佐史談会編「土佐史談第224号」2003年など>



### ■由岐町の室戸台風（徳島県美波町）

昭和9年(1934)9月21日、室戸台風が海部郡沿岸を北上し、午前5時過ぎに由岐町(現美波町)に襲来しました。最大風速60mの暴風雨に雨戸が弓なりに曲がり、家族が必死に畳で押さえつけていたという記録も残っています。由岐町では台風に伴い高潮が押し寄せ、数十分後には家屋の倒壊156戸、流失13戸、船舶の流出破損348艘などの被害が出ました。由岐小学校の校舎が講堂を残して倒壊し、志和岐小学校、東由岐の青年会館も押しつぶされました。東由岐公民館前には、昭和10年に建立された青年会館再建記念碑があります。再建記念碑には室戸台風の様子、被害の状況、記念碑建立の経緯などが記されています。<由岐町史編纂委員会編「由岐町史上巻、下巻」1985年及び1994年、青年会館再建記念碑の碑文など>

